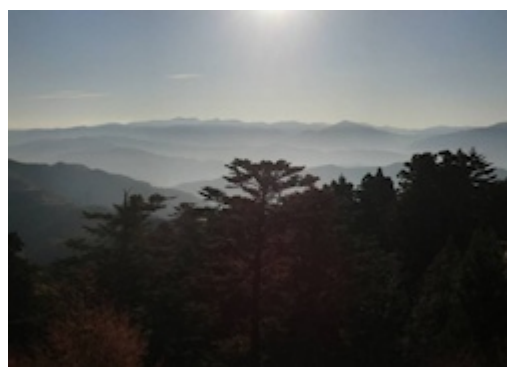


四国 88 箇所歩き遍路第 8 回 7 日目 (以下 2 ページの写真をクリックすると拡大)

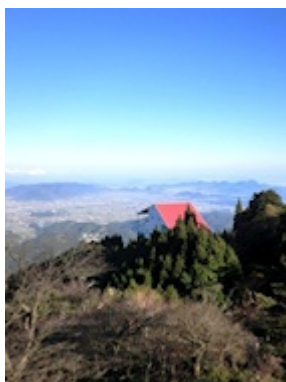
第 8 回 7 日目は区切り打ちの最終日です。讃岐遍路のスタート。66 番雲辺寺、67 番大興寺、68 番神恵院、69 番観音寺と回り、観音寺駅までの 25 キロ。のはずが、また道を間違えて 28 キロになりました。

11 月の朝は日の出が遅く、民宿岡田を出るときは主人の娘さんが、まだ暗いのにわざわざ外まで出てきて見送ってくれました。

雲辺寺は 880m の山の上です。焼山寺、横峰寺と同様、遍路転がしの道といわれます。とは言っても六甲山を歩き回った身では大したことはありません。



雲辺寺の境内は広く、展望台の上では巨人毘沙門天が北のロープウェイ駅に向かって睨んでいます。上からは四方の景色が見渡せ、東の山々は朝霧がかかっていた。朝日が昇ってしまっていたのが少し残念です。



本堂のそばに「おたのみなすの腰掛」があります。なすびの花は一つの無駄なく実になることから、腰を掛けて願をかければ必ず叶うといわれます。ナスと成すの語呂合わせもしています。

仁王門を入ったところにはマニ車（経車）。お経が彫ってあって、車を回すとお経を読んだこととなります。

大師堂の下の広い境内には釈迦の涅槃像があり、参道には五百羅漢が遍路を出迎え、見送ってくれます。雲辺寺から大興寺までは 9.5 キロ。

雲辺寺から下りて、大興寺に向かう県道の途中に民宿青空があります。私達より先行する菅さんはこの宿に泊まったと聞きます。

大興寺まであと 1.5 キロというときにトラブルが起きました。道を間違え、四角形の 3 辺を 3 キロ余分に歩いてしまいました。早足でも 30 分の遅れです。



道を曲がる目印の三角形の池を見つけ、そばの道標も確認したのに、写真を撮るため池の周りを歩いたのが間違いの元。
このときに方向を勘違いしたらしく、別の道に。気が付くのが遅すぎて、大変遠回りになりました。

大興寺には真言（空海）と天台（最澄）の二つの大師堂があります。大抵の遍路は真言の大師堂しか拝みません。私達はきっちり両方のお堂を拝みました。



大興寺の外に出たとき、小松で同宿の二人にばったり出会いました。一人は外人、一人は神戸の名谷（竜ヶ台）から来た健脚の老人。
天台大師堂の前ではもう一人、足腰が弱ったという老人にも出会いました。この人はずうっと後と思っていたてもひょっこり目の前に現れたりします。最後の観音寺でも見かけました。



大興寺から神恵院までの 9 キロの途中に「やきもちの汐沢製菓」があります。宿で教わったように、焼き餅をかうとお饅頭の接待を受けました。



次の寺、神恵院と観音寺は同じ場所にあり、山門と納経所は共通です。

神恵院の本堂は階段を上った奥まったところにあり、目立ちません。



観音寺の本堂と大師堂は朱色の古色豊かなお堂です。いままで回ったお寺でも滅多に見られなかった（修行？）僧に出会えることが出来ました。寺にはお坊さんがよく似合いますが、特にこの寺では絵になります。
境内には楠の大木がありました。それでも香川では 10 番目の大きさだそうです。根っこの張り方が見事です。

観音寺を出たのが 4 時 20 分。観音寺駅まで 20 分ほど歩き、再び瀬戸大橋を渡って神戸に戻りました。
次回は 12 月、最後の区切り打ちになります。残りは 19 ヶ寺。結願を目指して歩き通すことになります。

第8回 7日目の一言日記

第66番 巨龍山 雲辺寺(うんぺんじ)



最も標高が高い所(921m)にある札所。香川1番目の寺で「讃岐の関所」と言われるが、住所は徳島県。雪の日で大集合した羅漢達は秋には参道に一列に並び、お遍路を出迎えた。

第67番 小松尾山 大興寺(だいこうじ)



地の人には小松尾寺と呼んでいる。同じ境内で真言天台二宗が兼学したという。本堂の左に弘法大師堂、右に天台大師堂がある。

第68番 七宝山 神恵院(じんねいん)



69番と一寺二札所の寺。仁王門に二つの寺名が書かれている。神舟と琴を奉安した琴弾八幡宮が七宝山神恵院となった。

第 69 番 七宝山 観音寺(かんのんじ)



68 番と一寺二札所の寺。納経も二つの札所分を同時に出来る。神宮寺と称していたが、七種の珍宝を埋めて地鎮して現名になった。